



原発はいやだ！ 戦争はいやだ！

岸田政権は、福島原発事故後「可能な限り原発依存を低減する」というものから、大きく転換し、原発政策の推進を打ち出しました。原子力の最大限活用、運転期間の延長（停止期間を除く）、次世代革新炉（改良型・小型原発の開発）新増設というものです。福島原発事故は健康や命、故郷喪失や人と人の関係、自然破壊などばかり知れない被害を出しました。人生の希望まで奪ったのです。

3・11子ども甲状腺がん裁判で、「23歳までしか生きられないかもしれない」「再発で大学も将来の仕事につなげようとしていた勉強も、コンサートも行けなくなり全部諦めた」との陳述に胸が痛くなりました。

汚染水の海洋放出、汚染土の拡散にも多くの反対の声が上がっています。廃棄物の処理ができないものは作るべきではありません。

ウクライナで戦争が始まり1年が過ぎました。何としても止めさせたい。岸田首相が軍事費を5年間で43兆円にすると発言しました。奨学金400万円の借金を抱えて卒業する学生。障がい者施設で働いている友人は「入所者の食事が夕食と朝食で300円。この物価高でどう生きるのよ。トマホーク買うより、これ何とかして」と、テーブルをたたいていました。憲法を暮らしに生かしたいものです。

安保法制違憲訴訟原告の学習会で別の友人は、父が亡くなる前「難しいことではない。いやだったら、いやだ！ と言えばいいんだ」と、よく言っていたそうです。今こそ、「原発はいやだ！」「戦争はいやだ！」と声をあげましょう。4月は統一自治体選挙です。選挙にもこの声を反映させましょう。

労働大学企画編集委員 荒畑 正子